

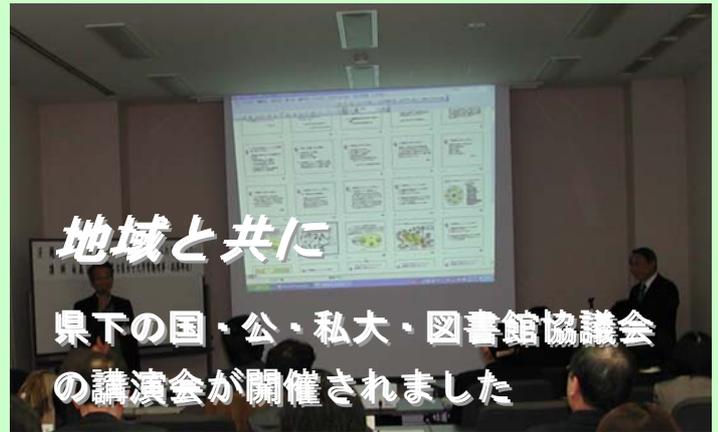
特集：ピーター・パン

作者の資料 (Barrie's Collection)  
が公開されました



地域と共に

県下の国・公・私大・図書館協議会  
の講演会が開催されました



# 弘前大学附属図書館報

H18年度 21世紀教育 特設科目として

「津軽学—歴史と文化」スタート!

それに伴って、図書館では

指定図書『津軽学コーナー』

を設置します



館内に、21世紀教育関係の指定図書コーナー  
ができました



ほうせん

豊家

No.26

2006.3

ISSN 0919-8563

# CONTENTS

## 新春夢放談

巻頭言：図書館とはなに？ その未来像は？

1

## 特集：ピーター・パン

ピーターパン原作者、James M. Barrie のコレクションと関連イベントの開催

3

## 基礎ゼミコーナー

指定図書の利用は、図書館を新しい教育実践の場に変える！

7

## lead-off

- |     |                                |    |
|-----|--------------------------------|----|
| I   | 第2回学術講演会 青木 保氏の「異文化理解」の先は？     | 10 |
| II  | 第1回の図書館主催「言語力コンテスト」の真のねらいとは？   | 13 |
| III | 図書館の利用法ガイダンス                   | 15 |
| IV  | H18年度から開講される注目の特設テーマ科目「津軽学」とは！ | 16 |

## 地域と共に



- |   |                                   |    |
|---|-----------------------------------|----|
| ♡ | 県下の国・公・私立大学の図書館協議会による図書館職員のための講演会 | 19 |
| ♣ | 中弘南黒地区の公・私立高校図書担当教員の図書館見学 その印象は？  | 20 |

## 図書館への声

- |   |                      |    |
|---|----------------------|----|
| ♣ | 各学部から、学生の図書館に対する想いの声 | 21 |
| ◆ | 学内寄贈図書一覧と希望図書の購入リスト  | 25 |
| ♣ | 利用者から寄せられた声          | 27 |

## 数字でみる図書館

H16年度の図書館利用に関する統計資料

31

## 年間貸し出しベスト10

テキスト・参考書を合せてのデータ

H16年度の図書貸し出し総合ベスト10の発表

34

## What's the 図書館, and how should the 図書館 be?

弘前大学附属図書館長  
雨森 道紘



この原稿は、2006年初頭に書いている。この号は2006年度の大学一（在校生・新入生・大学職員）のためのものとなる筈である。新春号となれば本来は「夢」を描くのが常道である。昨今は夢が描けない時になっているのか、世知辛さがそれを阻むのか、周りに夢が見えないのは寂しい限りである。しかし、夢はインセンティブを与える。また、それが**目的を得たものなら、そのチャンスがやってくれば一気にかなう**というのがこれまでの私の経験である。さて、図書館の夢とは何で、それがかなったら図書館はどうなっているのか？

夢の始まりである。そこでは新図書館は大学の顔となっている。（『チャペルと図書館が大学の顔である。』と言われる米国では夢ではなく、昔からの現実である。）大学の中央に、新図書館を含むドーム状の建物があり、そこからは放射状に各学部へ廊下が連結している。

（夢をより現実的に言えば、理工学部と人文学部が連結し《丁度大町通りの旧ダイエーと隣の駐車場が道路を挟んで、連結しているのと同じく》、さらに総合教育棟から2階廊下でこのドームが連結している。もう一つは、教育学部と2階廊下でこのドームが連結する。これで、文京キャンパス内では、全学部と図書館は連結する。連結だけは、割と簡単か？〈次ページ挿画参照〉）

夢がかなったときの新図書館は、その場所に相応しい役目を担っている。

I 内部においては

「図書館が大学の顔である」とは、図書館が、大学の目的である教育と研究を達成するために、学生・教員の「知」のデータベースとなり、またその場所を提供することである。そのためには、教育・研究のための全ての学術情報資料は図書館に管理されてあって、現在のように図書が常時どこかの研究室に貸し出し中等ということではなく、**学生にしる教員にしる図書館に行きさえすれば、大学所蔵の図書は全て手にすることが出来るようになることである。**勿論、電子媒体は、ネットを介して図書館を経由せずに見ることが出来る。

さて、新図書館は学部・研究室の全てと連結されているので、利用の必要を感じたときは、雨も風も雪も気にならない。後で講義のある日でも、時間まで図書館をゆっくり利用することが出来る。教員も、図書は図書館にしか置いていないので、必ず図書館に行かなければならない。学生は、研究室で教員に会うのではなく、図書館で会うのである。「子は親の背中を見て育つ」と同じく「学生は（図書館での）教員の背中をみて育つ」。先生が勉強している様を見て育つことになる。そこには、教員と学生との懇談室や学生のための学習相談室や、学生評価において学生の多くが理解の難しいという講義の改善のために、教員のための教授法のカウンセリング室を設けるなど、教育のための多くの実習室が用意されている。また学習相談室では、レポートや論文の作成に不

安を持つ学生に対して、それらをサポートする大学院学生の Teaching Assistant も大いに活躍している。

## II 学外においては

「図書館が大学の顔である」とは、外からみれば大学の「知」の窓口が図書館になるということでもある。図書館は大学の知のリソースの源であり、大学で生産される全ての機関誌、その他の情報誌や情報は、発信源を図書館が司っている。我が大学のモットーは、「世界に発信し、地域と共に創造する 弘前大学」である。より良き情報を発信することは、我が大学の生命線である。すなわち、①広報（競合する大学間での「個性ある大学の知」を宣伝する、魅力ある教育・研究を高校生・社会人に発信し、入学者を集める）、②情報（大学の「知」を有効に活かすための大学内外のネットワーク）、③地域連携（これは学術講演や、高大連携〔高校と大学の連携〕や、更には、H18年度21世紀教育テーマ科目で始まる『津軽学』の講義などを広く市民に開放することなども意味する）、④生涯学習教育（図書館の知を利用しない生涯学習などありえない）などを含み、少なくとも大学の「知」のリソースを用いての発信は、図書館が窓口となっている。

また新図書館が外からの「知」の受信の窓口となっている理由は、一般に社会人が大学の機構に疎い場合に、**ともかく「学術情報に関することならば全て図書館で聞**

**くことが出来る**」ように一元化することによって外部の人への最大のサービスを提供できることである。図書館は窓口に入った様々の情報をそれぞれの部署に振り分けることにより、外からの要望に対応している。このように図書館は大学の「知」の発信基地であると同時に、「知」のための受信基地にもなっている。

このような形態は図書館の持つ本来の機能に照らして考えれば理解は容易である。すなわち、本来、図書はその情報を単に蓄積しているだけでは全く意味を持たない。その情報を伝達することが目的として内包されているのである。従って図書の所蔵場所である図書館も同様にその目的を内包している。情報の媒体が様々な進化していくときに、図書館はその目的達成のために同様に進化していくのである。「知」の発信基地が図書館なのは、図書館の、そして大学の「進化」した形である。

さて、この夢は、部分的にはすでに日本のいくつかの大学で実現されている。特に私立大学では図書館が著しい変革をとげている。2007年度以後の「大学全入時代」には、大学の学生へのサポート体制こそが要で、学生がその大学で如何に満足を得られるかがその全てであり、**入学生に満足を与えられる大学のみが生き残ることになるからである。**

(あめのもり みちひろ)



## ピーター・パンがやってきた

人文学部 石堂 哲也



1 904年12月27日、ロンドンで『ピーター・パン』が初めて上演されてから100年あまり経ちました。この間、すべての子供たちと、子供のころに忘れ物をしてきた一部の大人たちに愛されてきたこの永遠に成長しない少年が、世界中を飛び回った挙げ句に弘前大学附属図書館にやってきました。

生みの親である劇作家・小説家のバーリ（James Matthew Barrie: 1860～1937）の研究者として名高い鈴木重敏氏が長年蒐集されてきた蔵書を寄贈してくださったのです。

どこの国にもその文化を代表する児童文学の名作がひとつやふたつはあります。デンマークのアンデルセンの童話、イタリアのピノキオ、フィンランドのムーミンなど。ところが、イギリスとアメリカにはちょっと思い浮かべてみるだけでも嬉しくなるくらい傑作がめじろ押しです。オズの魔法使い、不思議の国のアリス、トールキンの指輪物語、熊のプーさん、そしてハリー・ポッター。海を渡ると、若草物語、ハックとトム・ソーヤー、大草原のローラ、等々。フランスのババールなど本国でよりもむしろアメリカの子供たちに人気があるのではないのでしょうか。

世界には、大人になりきらない人が多い文化と、少ない文化があるのかもしれませんが。

たとえば、いま手もとにある『ピーター・パン』（小説版, Peter Pan, Puffin Books, 2002）を開いてみます。両親の留守中にダーリング家に紛れ込んだピーター・パンはこどもたちに空を飛ぶ方法を教えようとします。勿論、うまくいきません。やってみるたびに、ベッドから床におちてしまいます。どうすればうまくいくの、と聞かれたピーター・パンはこう答えます。

「なにかちょっとすばらしいことをおもいうかべてみてごらん」・・・「そうするとうかびあがるよ。」

この一節を読むと、（いい年をして）しばらく本を閉じて「なにかちょっとすばらしいこと」を考えてみたくありませんか。

作者バーリはスコットランドの生まれ。文人として名をなし爵位を授与され、エディンバラ大学の学長も勤めました。周知のとおり、スコットランドはアイルランドとならんで

先住民のケルトの文化が色濃く残っているところ。妖精や魔法使いの活躍する民話の宝庫です。そこで生まれたピーター・パンはみちのくの美しい風土をきっと気に入ってくれるとおもいます。



**PETER AND WENDY**

By **J.M. BARRIE**

Illustrated by **F.D. Bedford**

*Made and Printed in Great Britain*

*Hasell, Watson & Viney, Ltd.,*

*London and Aylesbury*

ピーター・パンには忘れられない後日談があるので、さきほどの Puffin Books 版の冒頭にある記述を紹介しておきます。

1929年、バーリは『ピーター・パン』にかかわる全ての権利をある小児科病院に寄贈しました。著者が亡くなってから50年経った1987年に、イギリスの法律によって著作権が期限切れとなり、この病院の権利は失効します。ところが、その翌年、イギリス議会はすべてのピーター・パンにかかわる印税収入の権利を回復する特別措置をとりました。これによって、この病院が存在する限り、この病院で病魔と闘っている子供たちはピーター・パンからの援助を受けることができるようになりました。

こういう粋なことをする人たちのことを英語では”the young at heart” と言うようです。

(いしどう てつや)

## Barrie Collection 寄贈とその経緯について

**平**成17年4月、弘前大学附属図書館に『ピーター・パン』の原作者で有名なジェームズ・M・バリー(1860-1937年)の著書および関連資料183点が日本でのバリー作品翻訳における第一人者 鈴木重敏氏 より寄贈されました。

長年、鈴木重敏氏のお手伝いをしておられる弘前大学文理学部卒の嘉瀬智子氏が、弘前大学東京同窓会において遠藤正彦学長とのお話の中で、鈴木重敏氏が高齢になってきたので、ジェームズ・M・バリーの蔵書をどこか一括所蔵し、活用して貰えるところに寄贈したいとの意向を伝えたのがきっかけで寄贈されることになりました。



平成17年4月8日、雨森道紘附属図書館長、英米文学研究者石堂人文学部教授、三上豊資料管理グループ係長の3人で鈴木重敏氏のご自宅に伺い、寄贈して戴くジェームズ・M・バリー コレクション183点の現物確認を行いました。一部修理が必要な書籍もありましたが、ほぼそのまま利用可能な状態で所蔵されていました。

寄贈されたコレクションについては、一部修理製本を行い、整理作業中ですが、この号が刊行される頃には、皆さんに公開できるものと思います。

(図書情報担当 三上豊)

## Barrie Collection 寄贈への感謝状贈呈と藤崎農場での一日



ジェームズ・M・バリーのコレクション183冊の寄贈者、鈴木重敏氏とその仲介をされた嘉瀬智子氏(弘前大学文理学部文学科卒)両氏の功績に対し平成17年5月16日弘前大学長(学長出張中のため中澤副学長代行)より感謝状及び記念品が贈呈されました。



その後、図書館において弘前大学の英米文学関係者および図書館関係者を対象にジェームス M. バリーおよびバリーコレクションについて、鈴木重敏氏の講演が行われました。



講演の後に、参加者との懇談会が終始和やかな雰囲気の中で行われ、参加者全員がこれから弘前大学でバリーのコレクションが息づいていくことを願って会を閉じました。



また、前日の5月14日、15日には、弘前大学農学生命科学部藤崎農場で開催の「リンゴとチューリップのフェスティバル」において、ピーター・パン関連図書を中心にコレクションの一部と鈴木重敏氏からお借りした「バリー直筆の手紙」「ピーター・パンのカラー絵本（英文）」などを展示し、一般市民に一足先に公開されました。



この藤崎農場チューリップ園は、この度の寄贈にちなんで『ピーターパン・チューリップ園』と名付けられました。

5月15日には、感謝状授与式に出席のため来弘された鈴木氏ご夫妻と嘉瀬氏が、遠藤学長および雨森館長と共にコレクション展示の見学と、ピーターパン・チューリップ園の散策を楽しまれました。



## 基礎ゼミコーナーの「指定図書」について

21世紀教育センター 高等教育研究開発室

土持 法一



平成17年度弘前大学FD講演会・シンポジウム（平成17年12月）は、「弘前大学の授業開発と実践」と題し、とくに、平成18年度、新しい学習指導要領で学んだ生徒が入学してくることから、「授業内容の高大接続—各教科作業部会報告—」と題してシンポジウムを行いました。高大接続の重要性が指摘されて久しいが、学習指導要領の改正にもなって、再び、クローズアップされるようになりました。しかし、授業内容だけではありません。演習のような大学独自の授業形態も新入生の戸惑いの要因となっています。たとえば、「（東京大学の女子学生が）大学に入ってから、自分の頭で考えなさいとか、自分の意見を述べなさいといわれる。だけど、どうすれば自分で考えることができるのか、どうすれば自分の意見を持てるのか。その方法は、高校でも学ばなかったし、今大学でも教えてくれない・・・」（苅谷剛彦『変わるニッポンの大学—改革か迷走か』（玉川大学出版部、1998年、173頁）との声に凝縮されています。その東京大学の元総長で文部大臣もされた有馬朗人氏は、演習が大学教育の「要」とであると指摘しています。

大学審議会の答申『21世紀の大学像と今後の改革方策について』（平成10年10月）では「課題探求能力の育成」、そして中央教育審議会の答申『我が国の高等教育の将来』（平成17年1月）でも、「単位制度の実質化」を取り上げ、学生に知的な刺激を与え、自主性を引き出し、自学自習の態度を身につけさせる能動的学習を促しています。このような自主的な活動を培うには、演習が重要であって、とくに、初年次の「基礎ゼミナール」は4年間の学士課程教育の成否を決定づけると言っても過言ではありません。

本学の「基礎ゼミナール」の達成目標（5項目）のなかには、1）自主的な学習態度を獲得すること、2）課題発見能力を高めること、3）資料（情報）の検索・収集・整理に関する基本的な技能を習得することなど、図書館を利用することなしに達成できないものばかりです。そのような理由から、本学の附属図書館では「教育・学習支援図書」の一環として、「基礎ゼミナール」の関連図書を重点的に購入し、「基礎ゼミコーナー」を新たに開設しました（写真参照）。これは学生に自学自修のための課題を与え、自主的な学習態度を促すことを目的としたもので、本学では「指定図書（Reading Assignment）」

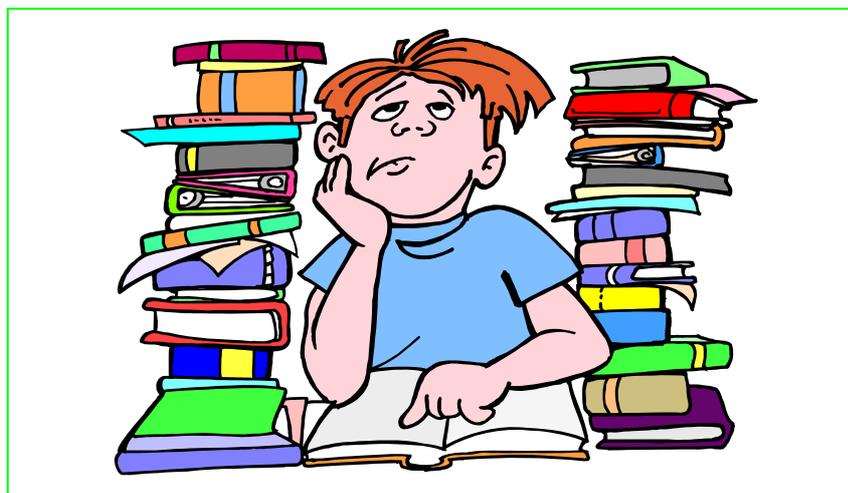


と名づけています。また、学生がいつでも利用できるように、図書館のみでの閲覧を許可し、他の学生の利用の便を考えて貸し出しを禁止しています。この「基礎ゼミコーナー」に「指定図書」を開設したことで、より多くの学生が附属図書館に足を運ぶようになりました。平成18年度も、引き続き、「基礎ゼミコーナー」の拡充を目指します。

「基礎ゼミコーナー」に「指定図書」を開設した理由は他にもあります。教員にも「指定図書」を通して、学生に授業のための課題を与え、「自学自修」を徹底させ、単位の実質化を促してもらいたいとの思いがあります。承知のように、大学における単位制は高校とは違って、1時間の講義に対して、2時間の予習・復習の「自学自修」が課せられています。しかし、多くの教員は講義には熱心であるが、教室外の学生の「自学自修」の課題にまで手が回らないというのが実情です。大学教育学会の2005年度研究集会「学士課程教育と教養教育」（2005年11月、新潟大学）において、角方正幸氏（リクルートワークス研究所）は、課題発見力のような「対課題基礎力」は、教員の授業スタイルによって培われると報告しています。すなわち、「課題探求能力の育成」は教員の授業方法にかかっていることがわかります。附属図書館の「指定図書」システムが、21世紀教育の「基礎ゼミナール」のみならず、専門課程も含めたすべての学士課程教育において共通に実施されることを望んでいます。



(つちもち ほういち)



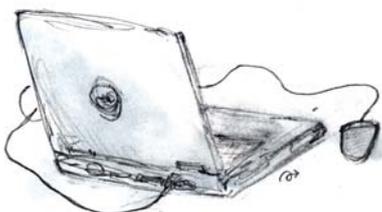
## 図書館のちから

教育学部生涯教育課程 1年 野崎 美緒



**弘** 前大学に入学する前までの私は、近所にあった図書館はもちろん、高校の図書室でさえ全く寄り付こうとしない子供でした。私のイメージの中での図書館は、静かで息苦しく、むしろ勉強しづらい環境。実際に行って確かめたわけでもないのに、勝手に、まるで食わず嫌いのような感じでした。ところが、大学入学と同時に、そんなことも言っていられない状況になってしまいました。そう、大学の講義の課題は、決まってレポート提出、という方式だったからです。友人たちが頻繁に図書館を利用して課題に取り組んでいたの、私も何となく行ってみたのです。に入った瞬間驚きました。学生証のバーコードを読み取って入室できるシステム、すぐ横にはたくさん並んだ誰でも使用できるパソコン、さまざまな学生、先生方のために用意された膨大な数の本。そして何よりも驚いたのは、自分が想像していたのとは全く違った独特の空気。外とは違い、この中だけゆっくりとした時間が流れ、私を優しく向かい入れてくれているような気がして、とても居心地がよく、あまりの違いに困惑してしまいました。それからの私は、暇を見つけては図書館に足が向かうようになっていました。図書館にいと、時間が経つのを忘れてしまいます。それぐらい、自分でもびっくりするぐらい集中できてしまうのです。後期に入ってから、テーマ科目の講義でも予習として、図書館に置いてある先生の指定した本を利用するようになりました。先生方の指定図書は館外に持ち出し禁止になっているので、予習したいのに借りられてしまって見られない、といった状況になることも少なく、とてもありがたいです。それでも冊数が少なく、読みたくても本がない、ということもあるので、もう少し多めに置いてくれると嬉しいです。また、自分の専門分野の本は、難しい言葉で書かれてあるものが多く、苦勞したりしますが、レポートを作成する際、とても役に立っています。これからも私は、図書館を自分らしく、この独特の空気を楽しみながら活用していきたいと思っています。

(のざき みお)



## — 第2回弘前大学附属図書館主宰学術講演会 —

昨年に引き続き、弘前大学附属図書館主宰の第2回学術講演会が、平成17年11月25日の午後4時から、弘前大学創立50周年記念会館みちのくホールで、「世界から、そしてアジアから見た日本文化」と題して、現在法政大学特任教授で、世界で活躍中の文化人類学者である青木保先生を招いて開催されました。

### 異文化に触れるということ

人文学部 澤田 真一



平成17年11月25日、みちのくホールに集った130名の聴衆の中には、ぽつりぽつりと、あるいは数人で身を寄せ合った国際色豊かな留学生たちの姿が見受けられる。附属図書館主催による講演会の演者は、日本を代表する文化人類学者のひとり青木保氏。演題は「世界から、そしてアジアから見た日本の文化」。文字通り世界をフィールドに駆け巡る青木氏の文化論の根底には、人間は多種多様な差異一人種、言語、宗教、文化、価値観等一を乗り越えて、共同性を打ち立てることができるという希望がある。

かつてブラジルの小説家パウロ・コエーリョは、異文化の中に飛び込む行為としての旅を再生に喩えた。すべてが目新しく、言葉にも習慣にも不慣れな環境に適応して生きていくために、人は土地の人間の話す言葉に必死に耳を傾け、彼らの一挙手一投足を凝視する。異国での体験は、人を生まれたばかりの赤子の状態に引き戻し、自分の無力さと小ささを思い知らせる。しかし、この不自由さは同時に新たな成長の機会となり、人の器を大きくしてくれる。青木氏は『異文化理解』の中でこう語っている。人は自分が生まれ育った「文化」という枠で束

縛されているが、異文化に触れることを通して「文化の殻」を破り、「何か違ったもの」を摂取することで自分の生活をさらに豊かなものとするができる。国際的な共通語としての英語の世界的な普及のため、英語を母国語とする人間は、世界中どこを旅しても、わざわざその国の言葉を勉強したり文化に習熟する必要なしに、何とか暮らしていくことができる。弘大の姉妹校、オークランド工科大学の前学長ジョン・ヒンチクリフ氏は、



この便利さを「不幸なこと」と呼んだ。不自由を味わうことから除外されることは、異文化理解と共感に基づいた多文化社会構築の助けにはならないからである。果たして我々日本人の内には、外国旅行や留学に付随する「不自由さ」を「特権」と捉えうる視点が存在するであ

ろうか。

講演の後半、トピックは日本の側からの世界へ向けての文化発信、文化外交の必要性へと移行していく。国際政治を専攻していない学生にとって、軍事力や経済力によらずに文化的な魅力によって他国に影響を及ぼし、好ましい結果を得るという、ジョセフ・ナイの「ソフト・パワー」という概念は、新鮮に聞こえたに違いない。都市中間層を主体とした大衆文化の共有を皮切りに、表面的



な差異の背後に隠れている共通性を見つけ出し、それをひとつひとつ積み重ねて堅固な基盤としていくことが必要であるという東アジア共同体構想への展望で、1時間にわたる講演に幕が下りる。

果たして大学は学生に対して十分な文化教育を行っているだろうか。国際的な知識と国際的な経験を提供しているだろうか。留学生は宝物であるという意識を持っているだろうか。自分にできることは何であろうか。青木氏のメッセージは、心に波紋を起こし、その波紋は広がっていく。

学生たちがどのように感じたのかを知りたくて、会場を出ると私はすぐにゼミ生を呼び止めた。

(さわだ しんいち)

左から青木先生、遠藤学長、雨森館長、中沢理事



国立大学法人弘前大学附属図書館第2回学術講演会 平成17年11月25日

## 附属図書館第二回学術講演会を受講して

人文学部情報マネジメント課程 4年 島 和佐



**今**回の学術講演会に参加したのは講演者が法政大学大学院特任教授青木保氏であったからである。一緒に参加した友達は異文化理解に興味があり、僕は自分の経験や大学生活において異文化に触れる機会があり、そのことがグローバル化及びアジア化にある日本とどのような関係があるのか知りたいと思った。

青木先生がご講演の中で強調されていた点は、和と共生の尊重を「東アジア共同体」構築に向けて積極的に日本が文化外交において推進すべきであるということだった。その外交は政治に限らず、高等教育、大衆文化、

観光、国際協力といった分野も含まれ、インターネ



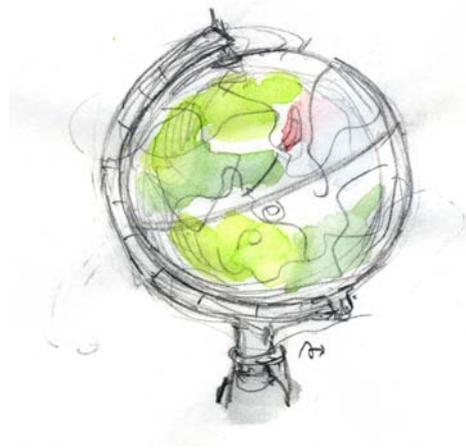
ットを例とする情報革命によって日本の動向が世界各地へと伝達される現状を踏まえると、その文化外交の重要性は明らかであるとされた。身近な代表例は「韓流ブーム」であり、青木教授が東アジア共同体評議会有識者議員として執筆参加された著作『東アジア共同体と日本の針路』ではそのブームがシンガポール、タイ、台湾そしてフィリピンといった周辺各国へと広がっていると先生は書かれていた。

青木教授はこうした「東アジア共同体」における文化構築において、「都市中間層」がその担い手になると書

いている。上流富裕層でも一般庶民でもない、高学歴で合理的判断を好み、宗教やナショナリズムにとらわれずコミュニケーションを行いやすいその中間層が他国との文化構築を推し進めるとし、グローバル化においてもその地位は変わらないとしている。格差社会とは、大げさに認識することなく、豊かさの中で個人がその嗜好と選択によって人生設計をする社会であり、海の向こうに同じような思いや考えを持った人々が一緒に生きていこうと手を差し伸べることは純粹にありがたく、その手を握り返すことが必要ではないかと思う。

日本人は今、自分達だけを見てはいけない。時代遅れである「外人」観念を捨て、共に生きる術を見つけ発展していくことが今日の日本における若い世代、そして「東アジア共同体」構築において最も大切なことではないかと思う。

(しま かずさ)



## 言語力コンテストの開催と、その真のねらい

附属図書館長 雨森 道紘

図書館ホームページに「言語力コンテスト」の内容が次のように示されています。

『言語力』とは、読む力・書く力・調べる力・伝える力を含めています。

弘前大学附属図書館は、学生の皆さんに『言語力』を養ってもらおうと、以下の2部門からなる言語力大賞コンテストを行ないます。

● 部 門

I 文章表現のみによる部門  
短編小説（題材自由）

II テーマを選択し、公開プレゼンテーションを含む部門(今回は次のテーマのみ)

—「世界に発信し、地域と共に創造する 弘前大学」(本学のモットー)  
のために本学の学生として何ができるか—

このコンテストは今回が初めての試みであることと、また発表が学期の始まりより少しずれたことなどや、広報活動が十分でなかったこともあり、一般に学生にまだ周知されていないことがあるようです。そこで、この欄ではこのコンテストに至った経緯などを含めて、このコンテストの目指すものについて詳しく紹介いたします。

この発端は、昨年の国会超党派議員連盟からなる「文字・活字文化振興法案」の成立です。平成17年7月20日の朝日新聞社説記事によれば、『やはり読書が必要だ』という見出しで、一年前の文化審議会の答申「今後の社会では今まで以上に国語力が重要だ」という紹介も含めこの法案の必要性を述べています。例えば、**大学生の採用試験で企業が最も重**

**視するのは、コミュニケーション能力である。**伝える力や聴く力の乏しい学生が少ないからだ。言葉の力をつけるには、言葉と出会う機会を増やすに限る。それには本を読むことが欠かせない。読書は、「言葉の使い方をしり、漢字や慣用句を覚え、論旨を読み取り、展開の仕方を学ぶ。文化や歴史を学び、思考を伸ばし、想像力を磨く。…」。

はてさて、弘前大学にとってこの法案のよりインセンティブのある活用法は？ たどりついた先に待っていたのが『言語力コンテスト』となりました。これから毎年このコンテストを行うことを計画しています。

言語力コンテストの第一部門は、文章表現のみによる部門とし、今年度は短編小説のみとしましたが、

これからは他にエッセイ、書評、感想文など、文章表現に関わるものを全て対象として扱う予定です。

第二部門では、パワーポイントを用いたプレゼンテーション能力を競う内容となっています。これは、個人で参加することは勿論ですが、グループでの参加も可能なので、来年度（平成 18 年度）からの全てのゼミナールのグループが、基礎ゼミナールで、その目的の一つである、『課題発見能力を高めるこ

と』に自信を得たならば、ふるってこのコンテストに参加していただきたいと考えています。将来、学問研究を目指す人、また企業や社会での活躍を目指す人等、いずれの場合でも、言語を用いた確かなコミュニケーション能力ほど必要不可欠なものはありません。このような機会を大いに利用し、言語力に関する様々な能力を鍛えて頂きたいと考えています。

## 応募作品について

このコンテストの企画の発表が 17 年度後期となったにも拘わらず、今回小説部門には 12 編の作品が集まりました。作品については現在選考中ですが、中にはやはりウーンと唸らせる大賞にふさわしいと思われる傑作がいくつ也存在しています。これらを数年分纏めれば将来「言語力コンテスト傑作小説集」としてわが大学の出版会からの単行本化も夢ではないかもしれません。

### 第 1 回弘前大学学生「言語力」大賞コンテスト 応募者一覧

	学 部	学 科 等	学 年	氏 名	部 門	タ イ ト ル
1	人 文	社会システム	3 年	斉藤 大輔	I	ゴドフリー・デリックの憂鬱
2	人 文	人間文化	1 年	市毛 春奈	I	水中楽園
3	人 文	人間文化	3 年	若林 由来	I	旅の石
4	人 文	社会システム	2 年	野月 寛紀	I	春近し
5	人 文	人間文化	2 年	田中 千晴	I	月曜日のユウウツ
6	教 育	生涯教育／地域生活	1 年	柴田 詩織	I	ゆめわずらひ
7	教 育	障害児教育	3 年	渡部 知也	I	カレン
8	理 工	電子情報システム工学	2 年	渡辺 裕平	I	星形の雲
9	理 工	地球環境	3 年	平塚 晋也	I	西日と葡萄
10	農学生命	生物生産科学	1 年	龍田 和幸	I	思い出せ
11	農学生命	応用生命科学	2 年	佐藤 光	I	りんご
12	医	保健学科	1 年	福地 香	I	雪御伽
		計 1 2 件				

## 図書館からのお知らせ

図書館の利用方法について、以下のガイダンスで紹介いたします

### 図書館ツアー(新入生対象)

期 間 4月10日(月曜日)～14日(金曜日)の5日間

時 間 16:00～17:00

集合場所 附属図書館2階「新聞コーナー」前

(事前申し込みは不要です。5分前までに集合してください)

内 容・図書館の利用方法と館内ツアー(書庫内見学を含む)

- ・レファレンス・サービス(文献複写, 相互利用など)の利用案内
- ・OPAC(オンライン全学総合目録)の利用方法

### 図書館ガイダンス・実践編(学部学生3・4年, 大学院学生対象)

期 間 5月, 10月のそれぞれ5日間(予定)

時 間 未定

集合場所 附属図書館2階「参考図書コーナー」前

内 容・卒業研究などのための図書館利用方法

- ・図書館資料(書庫など)の利用方法
- ・レファレンス・サービス(文献複写, 相互利用など)の利用案内
- ・「雑誌記事索引」などの各種データベースの利用方法
- ・Webcat(全国総合目録データベース)の利用方法

### ゼミ単位・図書館ツアー

日 時 常時受付

内 容 新入生対象のツアーに比べ、OPACによる資料検索や資料の請求・貸出しなどに重点を置いた、具体的な内容を予定

### 総合文化祭図書館ツアー(一般市民対象)

期 間 総合文化祭開催期間中

時 間 未定

集合場所 附属図書館2階「新聞コーナー」前

(事前申し込みは不要です。5分前までに集合してください。)

内 容・例年秋に開催される総合文化祭において学外の方を対象とした図書館ツアーを実施しています

- ・利用登録を申請した方には「図書館利用証」を発行しています

## H18 年度から新しく始まる注目の特設テーマ科目

### 「津軽学 — 歴史と文化」への誘い

21 世紀教育センター 土持 法一

#### はじめに

『東奥日報』（2006年2月5日、朝刊）に、「『津軽』丸ごと学問に」の見出しで、4月から開講される「21世紀教育特設テーマ科目」が紹介されました。法人化後、弘前大学独自のカリキュラムを目指していただけないだけに、幸先のよい「津軽丸」の船出となりました。新聞でも報道されていたように、この授業科目は、弘前大学でなければ作れない独自のカリキュラムであって、「津軽の歴史と文化」をどのように学問的に体系づけ



られるか、内外から注目されています。この授業のカリキュラムの特徴は、ユニークな講師陣にあるといえます。いずれの講師も弘前大学もしくは津軽を代表する方ばかりです。この授業は、講師が教壇から一方的に講義するのではなく、学生による参加型学習を目指し、授業では「実演」「実習」も行われます。何よりも、本学附属図書館の「太宰治コーナー」に隣接して、新たに「津軽学コーナー」が設けられていることです。このコーナーでは、この授業に関連した弘前大学出版会から刊行された「津軽シリーズ」の著書のほか、ビデオおよびカセットテープ、さらに、旧制弘前高等学校の青春を描いた『弘高青春物語』（絶版）のビデオなどが準備され、「津軽学」について徹底的に学ぶ体制が整えられています。以下、「津軽学—歴史と文化」

とはどのようなものか、その概略を説明します。

#### 授業の趣旨

文化人類学者・青木保氏は、日本文化を「混成文化」と名づけ、三つの文化層の重なりで形成され、日本古来の土着文化の「神道」、アジアの大伝統の文化の「儒教・道教や仏教」に示された古代中国・インド文明の影響、そして、西欧近代文化あるいはアメリカ文化にあらわれていると述べています。

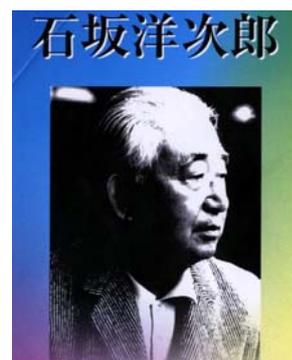
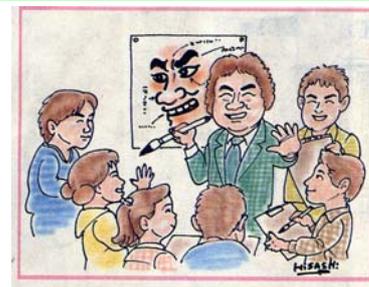
「津軽学－歴史と文化」の授業も、このような幅広い視点に立った「教養文化」を目指します。「灯台下暗し」と言われるように、我々は、郷土の歴史や文化について案外知らないものです。これでは、良識ある社会人になれません。弘前大学では、「世界に発信し、地域と共に創造する」をモットーとしているのですから、これから社会に、そして、世界に羽ばたくためにも、津軽の歴史や文化に誇りが持てる「国際人」でなければなりません。グローバルな社会であればこそ、しっかりとしたアイデンティティが必要になってくるのです。

この講義は、オムニバスによる授業を通して、「津軽の歴史と文化」に焦点を当てます。たとえば、弘前藩の庶民の当時の生活はどのようなものであったか、弘前の夏の夜を彩る弘前ねぶた絵、津軽塗り、津軽三味線など、さらに、弘前大学前身の旧制弘前高等学校における「高等普通教育」とはどのようなものであったかについて学びます。また、「津軽の文学」は、日本文学史のなかに独立した章が立てられるほど知名度が高いものですが、そのような文学を育んだ津軽の風土とはどのようなものだったのか。卒業生の文豪・太宰治の青春はどんなものであったのか。石坂洋次郎の小説『青い山脈』には、敗戦時期の地方都市（弘前）の学校における民主化への葛藤がどのように描かれているのか等々、青森県の高校の教員との高大連携によって、幅広い教養を身につけることを目的とします。



## 授業内容

- 「弘前ねぶた絵の歴史および実演」  
(八嶋龍仙・津軽伝統ねぶた絵師)
- 「津軽三味線の歴史および演奏」  
(笹川皇人・津軽三味線奏者)
- 「弘前藩の歴史と文化」  
(長谷川成一・人文学部教授)
- 「石坂洋次郎『青い山脈』」  
(舘田勝弘・弘前中央高等学校校長)
- 「旧制弘前高校の太宰治」  
(相馬明文・黒石高等学校教諭)



●「津軽方言詩」

(山田 尚・詩誌「亜土」主宰)

●「寺山修司の世界―寺山修司と青森―」

(櫻庭和浩・青森北高等学校教諭)

●「現在活躍中の文学者―長部日出雄, 鎌田慧, 三浦雅士を中心として」

(齋藤三千政・大鰐高等学校校長)

●「旧制弘前高校の歴史」

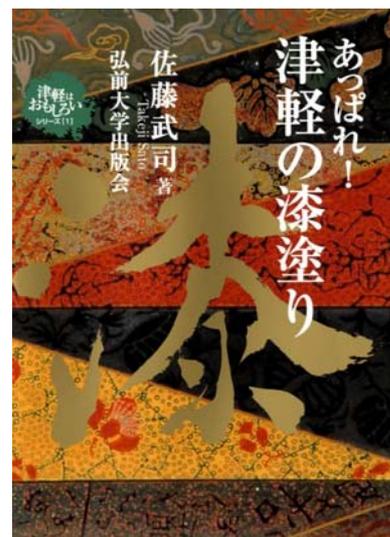
(前島郁雄・東京都立大学名誉教授)

●「旧制官立弘前高等学校外国人教師館と洋風建築」

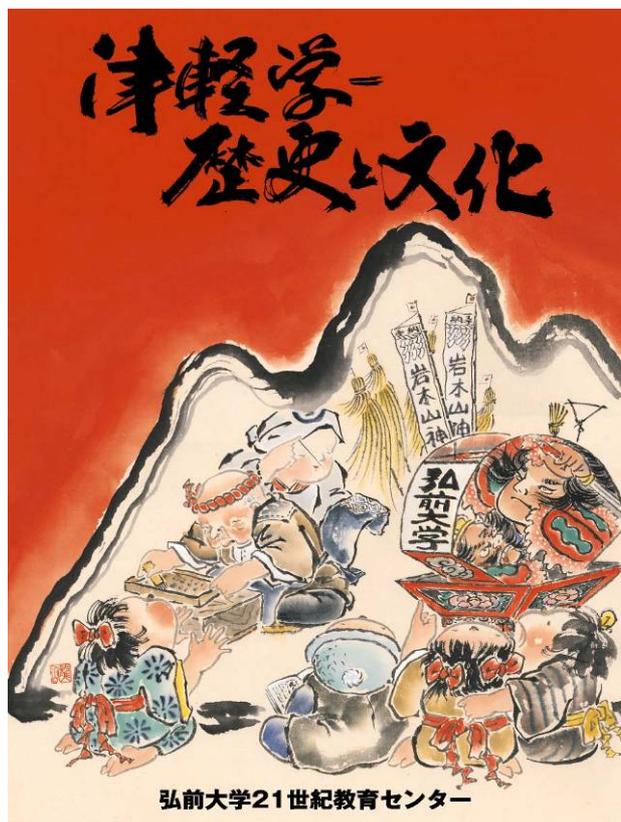
(芳野明・教育学部助教授)

●「津軽塗の文化と歴史および実習」

(佐藤武司・弘前大学名誉教授)



おわりに



「授業の趣旨」のところでも述べたように、弘前大学は、「世界に発信し、地域と共に創造する」をモットーに掲げているのですから、これから社会に、そして世界に羽ばたくためにも、津軽の歴史や文化に誇りが持てる「国際人」が求められます。グローバルな社会であればこそ、確固たるアイデンティティが必要なのです。

なお、講義内容についての詳しい説明は、『21世紀教育フォーラム』（弘前大学）（創刊号、2006年3月）を参照にしてください。

このポスター画は、ねぶた絵師八嶋龍仙氏に特にお願いして描いて頂いたものです



## 「今図書館に求められているものは？」をテーマに、県内の国・公・私立大学や県立図書館などの図書館職員のための講演会を開催

平成17年度青森県高等教育機関図書館協議会研修会が弘前大学附属図書館の当番館として、平成17年12月16日（金）弘前大学創立50周年記念会館会議室において、開催されました。

研修会は、関係機関および学内から約30名の参加の下、テーマを「いま図書館に求められているもの」と題し、名古屋女子大学常任理事・総務部長雨森弘行氏を講師



に迎え、氏のこれまでの大学図書館、公共図書館における永年の経験に基づいて、いま館種を超えて図書館に求められているものはなにかという

ことについて基調講演がおこなわれ、その後、講演についての質疑・応答を中心に講師を交えて参加者による意見交換等がおこなわれました。また、研修会終了後には希望者を対象に弘前大学附属図書館の見学を実施しました。

講師雨森弘行氏は、基調講演「図書館の不易流行ーいま図書館に求められているものー」のなかで、図書館は本を利用するすべての人々にとっての、“成長する有機体的組織体”であらねばならないとし、そのためには、図書館は常に世の中の「変化」や「要請」に対応して成長していくことが必要であり、また、それと同時に、「変

化しない基本」の部分も常に意識しなければならない。そして、そのことは、あたかも古の俳聖芭蕉の唱えた「不易流行」の理念にも準えることができるのではないかとしている。そのことを踏まえ、時代の変化に対応する図書館の変化、学術情報基盤としての大学図書館の強化・充実、職員の意識に係る課題や、館種・県域を超えた図書館ネットワークの形成による地域社会への貢献についての具体的な事例にも触れ、今後の新たな知のオアシスとしての図書館の実現に向けて、図書館職員のITスキル・企画力の向上と、図書館が「誰の」、「何のために」あるのかを考え、原点に立ち返ることが重要であるとの指摘があり、参加者は氏のこれまでの豊富な経験に基づいた内容に対し、熱心に耳を傾けていました。

また、基調講演後の講師を交えての意見交換の場にお



いては、参加者から学生の図書館利用教育の現状、図書館利用に係る教員の役割、利用者サービスの拡充のための新たなミッション・ビジョンの策定、その他各館における課題等について意見があり、熱心な討議がおこなわれました。



## 中弘南黒地区の公立高校, 16 校の図書館担当者が図書館の施設見学に訪れた, その印象は?

**青** 森県中弘南黒地区の公立高校 16 校の図書館担当者が年 1 回開催している研修会の一環として, 6 月 15 日の午後, 弘前大学附属図書館を訪れ施設見学がおこなわれた。施設見学後には, 附属図書館研修室において図書館長, 学術情報課長及び情報サービスグループ係長を交え, 参加者との懇談会も行われました。

そのなかで, 各高校図書館・室の利用状況としては, 時期, 利用目的により利用者数に違いがあり, 試験勉強などの座席利用や通学バス・電車の時間までの一時利用の多い高校では 1 日 100 名以上の利用者のいる高校もあるが, 50~20 名位の高校がほとんどであり, 10 名以下の高校もあること。課題は生徒にいかにか本を読ませるか, 読書に興味を持たせるかとしており, 生徒と直接書店に行き図書を選定している高校もあること。図書館・室の電算化は担当する図書委員の電算能力によるが, 目録入力等の負担が大きいため個々の高校により状況は異なっていること。高校間の連携までは進んでいないこと等のお話がありました。現在, 学校教育において言語力を養うため, 司書教諭の配置, 学校図書館の図書館資料の充実の必要性が言われているなかで, 各高校においても様々な工夫をしながら読書教育, 図書館利用教育が行われている状況が感じられました。

また, 施設見学の感想としては, 「図書館を多くの学生が利用している状況に驚いた。」「食事が出来るスペースがあれば便利である。」「ゆとりのあるブラウジングルームが必要ではないか。」「館内の雰囲気が暗い, 観葉植物を置いてはどうか。」「話題本コーナーの設置

をしてはどうか。」「入口からカウンターの位置が遠い。」「バリアフリーに対応した施設改修を希望したい。」「入口付近に身障者用エレベーターがあれば便利である。」等の意見の他に, 一般利用者の読書相談は受けてもらえるのか, 法人化のメリット・デメリットに関して, また, 盗難・紛失対策について等の質問がありました。

---

附属図書館においては, この度の感想・意見等を踏まえ, 施設・設備等について改修・増築を念頭に置きながら, 利用環境の改善, スペースの有効活用を図れるように検討していくこととしています。





## 図書館とわたし

大学院教育学研究科 1年 川瀬 大樹

**手** に入りたい文献があるときはできる限り図書館に足を運ぶことにしている。時間や労力こそかかるものの、実際に書架の間を巡り歩いた末に目当ての文献にたどりつけたときの感動はおおきい。かつて調べた経験のある事柄に系統づいた文献を探すときはその時の記憶をたよりにしながら調べればいいわけだし、最近では、はじめて調べる内容の文献でも大方の目星をつけて探しにいけるようになった。残念ながらいつでも目当ての文献に出会えるわけではないのが玉に瑕なのだがそれはそれで仕方がない。そういう場合に限って、蔵書検索やインターネットでの論文検索を行うことにする。ただ、いつでも時間が十分にあるわけではないので、急を要するときや膨大な量の資料を検索しなければならないときなどはやむをえず最初からコンピュータの力を借りることになるのだが。

そこまでわたしが足を運ぶことにこだわる理由は、文献探しのおもしろみにある。旧書庫をわたり歩いているうちに時間がたつのも忘れてしまい閉館時間に締め出されてしまうというようなこともしばしばである。そういうときは探しにきたもの以外の関係ない文献を読み耽ってしまうことがほとんどなのだが、それが後からしてみればかえって役に立ったなどという幸運なこともあったりする。無駄足を踏むのも悪くはない。

とにかく、便利なものがあるとどうしてもそれに頼ってしまう。文献を探すのはインターネット、取り寄せるのはカウンターでと手早く済まそうと思えば手段はいくらでもある。しかしながらこれらに頼ってばかりではあまりにも味気ない。文献を探す過程で得られるものを考えると少しもったいない気がしてしまう。いや、むしろ文献探しにこそ勉強の醍醐味があるのではないか。

スローライフ、はたまたスローフードなどといった言葉をこのごろでは耳にする。ゆったりとした時間のなかで豊かな生活を志すことをそう言うらしい。時間を忘れて書庫で無駄な時間を過ごすことがとても贅沢なことに思えた。

(かわせ だいき)



## 図書館のススメ

医学部医学科 4年 吉澤 忠司

**私**の考える「図書館のススメ」について述べてみたいと思います。  
一つ目は勉強に関することです。例えば専門書という類のものは非常に高価です。したがって自分にあった、読みやすい本を選んで購入する必要があります。大学生活を送っていけば何々の教科書がいいといった様々な情報が耳に入ってくると思います。確かに薦められる教科書にハズレは少ないでしょうが、自分にあう教科書は人それぞれ違うような気がします。そこで図書館の本で一度勉強し、そして勉強しやすい本を決めることをお勧めします。

また専門の勉強をしていくうちに気づくと思いますが、一冊の教科書では足りない部分が出てくる場合があります。そういうときにも図書館が非常に役に立ちます。枕にもなりそうな分厚い教科書にしか載っていないとき、わざわざその教科書を買わなくても、対応する部分をコピーすることによって手持ちの教科書に知識を補充することができます。ある教科書ではわかりづらい部分も、別の教科書を読むとすんなりと頭に入ってくることもあります。このように勉強をする上で（お金の節約からも・・・）図書館は非常に役立ちます。

二つ目の図書館利用する際のメリットは様々な分野の本が豊富にあるという点です。弘前大学は総合大学ということもあり図書館には様々なジャンルの本があります。勉強に疲れたときなど自分の専門とは違ったコーナーへ行き、立ち読みしてみるのもいいかもしれません。理系の人なら文系の分野を、文系の人なら理系の分野など、なにか新しい発見があるかもしれません。

最近読んだある数学者の本に以下のようなことが書かれていました。「数学者というのは美的センスが必要とされる。それは文学、古典を読み、感じる心にも通じる。」と。このような頭のいい人は別にしても、他の分野を知ることは自分の視野を広げる、言い換えれば情報の入力口を多くすることにも通じると思います。この情報の入力口を多く持っているというのは今後生きていくうえで非常に重要になってくるのではないのでしょうか。

以上述べたことは少しばかり先に入学した私の一意見に過ぎません。人それぞれ図書館の利用方法は違うと思います。自分にあった図書館の利用方法を探してみてもいいのでしょうか。まずは図書館に足を運んでみましょう。

（よしざわ ただし）

## 図書館で学ぶということ

医学部保健学科 1年 福地 香



**凍**えて強張った体が、暖かい空気でゆるむ。ほっと息を吐きながら本の壁の合間を縫って空いている席を探した。人の出入りや足音、本を整理する物音など、決して無音ではないその場所は、けれど不思議に独特な静けさがあってひどく落ち着く。

図書館とは、そういう場所である。勉強を妨げる要素をできる限り廃した、いわば学生の理想郷である。夏は涼しく冬は暖かく、喧騒に悩まされることもない。専門書が揃い、知りたいことは自分で調べられる。深く考えることのなかったそれらのことを、本学に入って改めて考えさせられた。

事実、私が大学生になったのだと最も実感したのは、図書館かもしれない。大学の教室で勉強しようにも、高校と違い自分のクラスがないから、使える教室がわからない。疑問点は先生に聞くほうが早くて楽だと思っていたが、大学ではそうもいかない。職員室というものがなく、研究室を訪ねても在室時間を見計らわないとうまくつかまらない。広いキャンパス内をうろうろしたって偶然見つけてなんかくれやしない。そんなことを、一気に解決してくれたのが図書館であった。

初めて弘前大学の付属図書館に入ったとき、蔵書の種類に息を呑んだ。今まで図書館といえば市立図書館や高校の図書館しか知らなかった私にとって、本棚にずらりと並ぶ専門書の背表紙の数々は圧巻だった。「自分で学ぶ」の意味を初めて深く考えた。そうして気づいたのは、ここでは「自分で学ぶ」のではない、「自分で学べる」のだ、ということだった。

学べるのだ、自分で。快い環境で、先生を探す前に、自分が好きなこと、それもたとえ自分が専攻していない分野であったとしても。医学部保健学科の私が、1960年代の貴重な医学雑誌を引っ張り出すことはもちろん、井原西鶴の研究書を借りようが現代教育についての本を読もうが、誰も咎めない。構わないのだ。大げさかもしれないが、眼から鱗だった。

今、それに気づいた私には、知りたいことが山ほどある。意欲だけが先走って行動がなかなか伴わないのだが、今はその、膨大な知識の海から好きなだけ知識を汲み取れる喜びを、じんわりと噛み締め始めている。

(ふくち かおり)



## 読書について

理工学部数理システム科学科 4年 中野 耕一

**弘** 前大学附属図書館概要 2005 によると、図書館の所蔵図書冊数は本館で 61 万冊、医学部、保険学科各分室合わせると 79 万冊を超えています。所蔵雑誌の種類に至っては 2 万 3 千種類。しかし、一人の学生としてこの数字を聞いたとしても、それは全く驚くべきことではないでしょう。なぜなら、図書館にある何十万冊の内、自分の勉強に関わってくる本は数十冊（多い人ならプラス百冊くらいなのかもしれません）、雑誌なら十数種類くらいで、さらにその中でもまともに読み切れる冊数となるといくらでもなくなってしまうだろうということが予想できるからです。もちろん、実際に読みきれた本がもっとずっと少なかったとしても、たいした問題ではないと思います。勉強における本の選びで重要なのは、とにかくたくさん、すべて読み切るのではなく、自分に必要なものを必要な分だけ見つけ出して確実に読み切るということです。

さて、話が変わりますが、私が最も本を読んでいた時期は小学生のころだったというのは間違いないでしょう。通っていた小学校の図書室はあまり広いとは言えず、もちろん他の小学校がどの程度かわからないので比較はできないのですが、6 年間がんばれば図書室にある本すべてを読むことができるかもしれないという程度でした。半ば、本をすべて読むという目的で読書に励んでいました。中学に上がり、図書室は広く、本は多くなりました。高校になると本がより多くなりました。しかし、読書に割ける時間はずっと少なくなりました。本の量だっがんばれば 3 年間ですべて読めるなどというレベルではなくなりました。こうして、成長するほどに読むことができる本が増えていくのに、読むことが難しくなっていく、私と本との間にある距離はどんどん広がっていくのです。

自分と本との間にある距離を知った上で、蔵書 79 万冊という数字、それは驚愕以外の何者でもありません。卒業すれば、大学を離れば読む機会を失ってしまう本が大部分でしょう。勉強の目的で読まなくてはならない本が限定される一方で、勉強を忘れたとき、私達の前に読まなくても良い本は一冊だってありません。それなのに、本との間にある溝は深まる一方。しかし、自分と本の距離がどんなに広がっていても、手を伸ばせば簡単に取ることができる本は必ずあるということをお忘れはいけません。そして、一人で読みきれないからといって諦めることはありません。自分が読めない本は、他の人が読んでくれればいいのです。そうして、自分の知らない本の話聞いて、人が知らない本の話をしてみましょう。きっと、読むことのできない本との間にあるはずだった距離は見えなくなってしまうことでしょう。

(なかの こういち)

# 図書館への声

## 本学関係者の著作で、図書館に寄贈された図書と資料の一覧

平成17年2月～12月受贈分

学部名	寄贈者名	資料名	発行所	発行年	数	所蔵先	
(人文学部)	長谷川 成一	Tsugaru	University of Otago Press	2005	2	本館	
	植木 久行	詩人たちの生と死：唐詩人伝叢考	研文出版	2005.7	1	本館	
	関根 達人	下北・南部の飢饉供養塔：補遺津軽の飢饉供養塔	弘前大学人文学部文化財論ゼミナール	2005.8	1	本館	
	堀内 健志	憲法 第3版	信山社	2005.8	1	本館	
	"	行政法 新版	信山社	2005.8	1	本館	
	柴田 英樹	変革期の監査風土：進化する監査	プログレス	2002.12	1	本館	
	"	監査風土の革新：会計ビッグバンで監査が変わる：なぜ、粉飾決算はなくなるのか!?	清文社	1999.3	1	本館	
	"	アメリカの管理会計	中央経済社	1995.9	1	本館	
	弘前大学人文学部文化財論ゼミナール	津軽悪戸焼の研究	弘前大学人文学部文化財論ゼミナール	2005.3	1	本館	
	(教育学部)	長野隆御遺族 長野和子	長野隆著作集；1	和泉書院	2002.8	2	本館
"		長野隆著作集；2	和泉書院	2002.9	2	本館	
"		長野隆著作集；3	和泉書院	2002.10	2	本館	
Westerhoven, J. N.		De olifant verdwijnt	Uitgeverij Atlas	2005	1	本館	
(農学生命科学部)	宇野 忠義	農民層分解と稲作上層農	筑波書房	2005.4	1	本館	
	"	農村社会の史的構造	筑波書房	2005.3	1	本館	
	"	農業生産力展開と地帯構成	筑波書房	2005.3	1	本館	
	"	環境創造型農業の形成	筑波書房	2004.7	1	本館	
(医学部・附属病院)	鍵谷 昭文	分娩時母児の心行動態	永井書店	2004.11	2	分館1・分室1	
	"	Maternal and Fetal Cardiovascular Hemodynamics at Parturition	永井書店	2005.10	3	本館1・分館1・分室1	
(医学部)	若林 孝一	ビネルバイオサイコロジー	西村書店	2005.5	1	分館	
	正村 和彦	神経解剖学講義 2004	弘前大学医学部解剖学第一講座	2005.3	2	分館	
	宮越 順二	電磁場生命科学	京都大学学術出版会	2005.10	1	分室	
	對馬 栄輝	パソコンによる医学データ解析 -SPSSを用いたデータ解析の基礎-	弘前大学生協同組合	2004.10	2	分室	
	(名誉教授)	佐藤 武司	あっぱれ!津軽の漆塗り	弘前大学出版会	2005.3	1	本館
		松木 明知	麻酔科学のルーツ	克誠堂出版	2005.5	2	本館1・分館1
		"	華岡青洲と「乳巖治療録」	松木明知	2004.3	1	分館1
		村越 潔	岩木山麓古代遺跡発掘調査報告書	村越潔	1968.9	1	本館
	"	青森に考古学を学んで	北方新社	2001.12	1	本館	
	"	村越潔先生古稀記念論文集	弘前大学教育学部考古学研究室OB会	2000.3	1	本館	
(弘前大学出版会)	橋本 喜明	文化としての物理学	学術図書出版社	2005.6	4	本館3・分館1	
	弘前大学出版会	あっぱれ!津軽の漆塗り	弘前大学出版会	2005.3	3	本館1・分館1・分室1	
	"	ローカル歌謡の人類学	弘前大学出版会	2005.6	3	本館1・分館1・分室1	
	"	T.S.エリオットのヴィア・メディア：改宗の詩学	弘前大学出版会	2005.6	3	本館1・分館1・分室1	
	"	写真集弘前界限：1989-1991	弘前大学出版会	2005.7	3	本館1・分館1・分室1	
	"	ようこそ、フランス料理の街へ	弘前大学出版会	2005.7	3	本館1・分館1・分室1	
	"	手関節：用語と定義	弘前大学出版会	2005.10	1	本館	
(弘前大学)	弘前大学	弘前大学名誉博士称号受章記念講演会(DVD)	弘前大学	2005	2	本館	
(旧制弘前高等学校同窓会)	旧制弘前高等学校同窓会	旧制弘前高等学校校史	弘前大学出版会	2005.5	3	本館1・分館1・分室1	

ご寄贈、ありがとうございました。附属図書館2階の「本学教員著作物」書架で展示・紹介をした後、図書館の蔵書等に加え広く利用させていただきます。今後とも図書館資料の充実を図るため、教員の皆様のご協力をお願いいたします。

# 図書館への声

## 利用者の皆さんから希望のあった図書の購入リストです

平成 17 年 4 月～18 年 1 月受入分

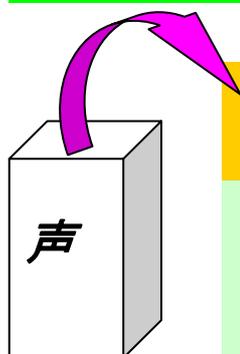
No.	分野	書名	出版社	出版年
1	哲学	「私」の存在の比類なさ	勁草書房	1998
2	西洋哲学	ルサンチマンの哲学	河出書房新社	1997
3	心理学	親密さの心理(現代のエスプリ 353号)	至文堂	1996
4	心理学	表現アートセラピー：創造性にかかわるプロセス	誠信書房	2000
5	日本史	竹島(鬱陵島)をめぐる日朝関係史	多賀出版	2000
6	西洋史	寛容の文化：ムスリム、ユダヤ人、キリスト教徒の中世スペイン	名古屋大学出版会	2005
7	北アメリカ史	概説アメリカ文化史	ミネルヴァ書房	2002
8	法律	「生きる」という権利：麻原彰晃主任弁護人の手記	講談社	2005
9	法律	プリメル民法 1 民法入門・総則	法律文化社	2005
10	法律	現代国際法講義 第3版	有斐閣	2003
11	経済	時代を超える生存の原則 (ビジョナリーカンパニー)	日経 BP 出版センター	1995
12	経済	飛躍の法則 (ビジョナリーカンパニー；2)	日経 BP 出版センター	2001
13	経済	マンキューマクロ経済学；1 入門篇, 2 応用篇	東洋経済新報社	2003-04
14	経済	コーポレートガバナンス・マニュアル：21世紀日本企業の条件	中央経済社	2005
15	経済	産業組織政策	東洋経済新報社	2001
16	経済	経営の再生：戦略の時代・組織の時代	有斐閣	2003
17	経済	M&A 攻防の最前線：敵対的買収防衛指針	金融財政事情研究会	2005
18	経済	現代の公共事業：国際経験と日本	日本経済評論社	2002
19	経済	検証成果主義	白桃書房	2004
20	経済	コーポレートガバナンスの研究	信山社出版	2004
21	社会	これだけは知っておきたいパート・派遣・契約社員の労働法便利事	こう書房	2002
22	社会	フリーターなぜ?どうする?:フリーター200万人時代がやってきた	学研	2001
23	社会	13歳のハローワーク	幻冬舎	2003
24	社会	福祉オンブズマン：新しい時代の権利擁護	中央法規出版	2000
25	社会	働く過剰：大人のための若者読本	NTT出版	2005
26	社会	障害者差別の社会学：ジェンダー・家族・国家	岩波書店	1999
27	社会	祝祭と暴力：スティールパンとカーニバルの文化政治	二宮書店	2005
28	教育	GRE, practicing to take the general test. 10th ed.	Educational Testing Service for Graduate Record Examination Board	2002
29	教育	英語のディベート授業・30の技：生徒が熱狂・教室が騒然	明治図書出版	1997
30	教育	自ら学ぶ子が育つ英語科自学システム	明治図書出版	1994
31	教育	だから英語は教育なんだ：心を育てる英語授業のアプローチ	研究社	2002
32	自然科学	科学は豹変する	培風館	2005
33	化学	実用高分子化学	丸善	2005
34	化学	バーロー物理化学問題の解き方. 第6版	東京化学同人	1999
35	地球科学	NHKスペシャル 地球大進化(DVD):46億年・人類への旅；第1～6集	NHKソフトウェア	2004
36	生物化学	蔵出し生物実験(遺伝 別冊 生物の科学 No.18)	裳華房	2005
37	生物化学	細胞からみた生物学. 改訂版	裳華房	2002
38	医学	食の安全とリスクアセスメント	中央法規出版	2004
39	技術, 工学	理系思考：エンジニアだからできること	ランダムハウス講談社	2005
40	建設工学	ゼロエミッション型産業をめざして：産業における廃棄物再資源	シーエムシー	2001
41	建設工学	環境問題と経営学	中央経済社	2003
42	製造工業	近代酒造業の地域的展開	吉川弘文館	2003

43	通信事業	知られざる通信戦争の真実：NTT, ソフトバンクの暗闘	日経 BP 社	2003
44	写真	誰でもわかる「印刷のできるまで」：デジタルワークフロー版	富士フイルムグラフィックシステムズ	2004
45	音楽	ニグロ・スピリチュアル：黒人音楽のみなもと	みすず書房	2000
46	音楽	シューベルト：カラー版作曲家の生涯	新潮社	1993
47	言語	Saying, seeing, and acting	Psychology Press	2004
48	英語	Google (グーグル) に聞け! 英語の疑問を瞬時に解決	丸善	2004
49	英語	Longman preparation course for the TOEFL test : next general	Pearson Education	2005
50	英語	Lingua TOEFL CBT insider : the super guide	Lingua Forum	2004
51	英語	Merriam-Webster's collegiate dictionary. 11th ed.	Merriam-Webster	2003
52	英語	The American heritage dictionary of the English language. 4th ed.	Houghton Mifflin	2000

これからも利用者の皆様のご希望に添えるよう、努力して参ります

## 利用者の皆様から寄せられた声です

(図書館ご意見箱・学長直言箱)



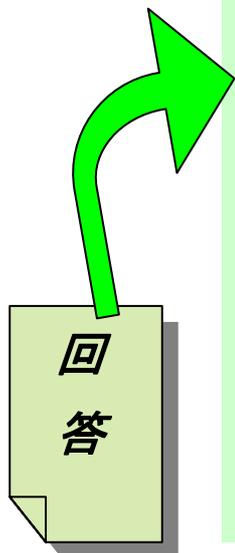
### ゴミ箱を増やしてほしい

(学部学生 農学生命学部 1年 H17. 4. 22)

弘前市では平成12年4月から容器包装リサイクル法によるゴミの分別収集がはじまり、それに伴い分別も3種類から12種類に増えました。

現在、館内には正面玄関に分別ゴミ回収ボックス1セットと生協コピー機付近及び2, 3階男女トイレ内に各々1個燃えるゴミ回収ボックスを設置していますが、分別を守らない利用者が多く困っております。また、図書館内では飲食を禁止し注意も行ってありますが、ルールを守らない利用者もみられ、館内のゴミ回収ボックスの全面撤去も考慮した時期もありました。

については、今回いただいたご要望に対しては館内に燃えるゴミ回収ボックスが少ないことも考慮して試験的に2階サテライト端末専用プリンター付近に燃えるゴミ専用ボックスを整備します。ただし、燃えるゴミ以外のゴミが多く見られる場合は撤去いたしますのでご了承願います。燃えるゴミ以外のゴミについてはいままでどおり正面玄関を入れて左側の分別ゴミ回収ボックスをご利用くださるようお願いいたします。



### 館内コピー機への要望

新書庫のコピー機が新札、新500円玉に対応できないのは非常に不便です。ご配慮して下さるとありがたいです。(学部学生 教育学部 3年 H17.5.11)

図書館内のコインコピー機は弘前大学生協で設置しています。図書館としては生協に以前よりお札の使用も含め要望を出していましたが、交換費用が高額となるため実現できませんでした。今回、新紙幣の発行もありましたので、再度要望しました。生協からは生協内のコインコピー機も含めた対応を検討しており、できるだけ早い時期に新札、新500円玉に対応した機器への更新を行う方向で準備を進める旨の回答をいただきましたので、いま暫くお待ちください。

**6月より図書館内コインコピー機を新札・新500円玉対応の機器に更新しましたのでご利用ください**

### 資料購入についての要望

①新聞コーナーに日刊工業新聞をおいてほしい。

(学部学生 理工学部 1年 H17.4.23)

②産経新聞を置いてほしい。読売・朝日・毎日・日経と産経以外の主要全国総合誌は置いてあるのにどうして産経だけ置いていないのか。今年から新たに地方紙をいくつか新規購読しているが、それよりも出身地に関係せずに読める全国紙の方を優先すべきだと思う。あらゆる新聞を読み比べて各新聞社の主張の違いや主張する理由を取り込み、その上で自分がどう考えるか養う力をつけさせる事は全学生の利益になると考える。

(学部学生 人文学部 2年 H17.6.28)

前回の投書でも、日刊工業新聞の購入について要望がありましたが、図書館購入雑誌・新聞については附属図書館図書選定委員会で購入資料の見直しを行っております。今回いただいた、ご意見について附属図書館図書選定委員会に利用者からの要望として提出しました。

**両紙とも購入が認められました。8月から新聞コーナーに配架されましたのでご利用ください**

## 図書館の開館時間についての要望

冬になると交通機関が乱れるため、時間に余裕をもって登校しようと考えています。なので、授業の始まる前の時間に図書館を利用したいのですが、現在、月～金は朝9:00開館なので、1コマ目の前に利用することが出来ません。月～金の開館時間を早めて、8:00～にしていただけませんか。検討、よろしくお願いいたします。(学長直言箱から H17. 11. 25)

余裕を持って登校するのは、大事なことで、しかも空いた時間を利用したいというのは、最もなことと思います。しかし、この要望を可能とするには、

1. 担当者の早朝出勤・内部の清掃などの他に、
2. 暖房と、
3. 除雪、

の問題が解決されなければなりません。暖房は早めに設定する必要があり、また除雪は健常者だけのためではなく3つの道を確認する必要があります。図書館は、実際には多くの準備を整えてから、開館しなければならず、考えるほどには実行は容易ではありません。学部の教室への入室を早める場合のように簡単には出来ないのが実情です。時間を早めるためには、いずれも予算的な措置が必要となり、現在の年度始めに設定された予算の枠の中では、処理することができないこととなります。この問題は、来年度希望者の数も考慮に入れて検討課題といたします。

## 書庫入庫についての要望

図書館の旧書架には、教授方、大学院生、学部学生3、4年生のみ入庫できることになっています。どうして学部1、2年生は入ることができないのでしょうか。特に私の要望としては、自由に紀要を見たいということで要望願を書いています。

確かに、3、4年生は卒業論文の研究のため今までの紀要等を見て研究材料にする必要があるので許可しているのだと思います。しかし、1、2年といえども、卒業論文の準備のために今から準備したいという人もいます。自ら学びたいと思う学生達と、許可された方々との間に差をつけて良いのでし

ようか。両者共々、学ぼうとして紀要を手にするには変わりはないはずで  
す。そのため、学年による区別をなくし開かれた図書館にした方がより学生に  
身近なものとなるのではないかと考えます。大学にある図書館は、いったい誰  
のためにあるのでしょうか。教授の方々はもちろんのこと、なんととっても学  
生のためにあるはずで。その学生に平等の権利が与えられないのはおかしい  
のではないかと考えます。  
(学部学生 教育学部 1年 H17.12.8)

現在、書庫入庫については、学部学生の場合は卒業論文研究のため3、4年生に限り入  
庫を認めています。全学年の入庫を認めた場合、書庫内資料の配架混乱が多く生じま  
す。十進分類法で配架されている図書や書名順で並んでいる雑誌の誤配架が生じると  
膨大な蔵書の中からその資料を探し出すために多くの時間が必要となります。また、  
存在するが資料が見つからないといった事態も発生し他の利用者に迷惑が及びます。  
混乱した資料の整理に臨時休館日数の増加が想定されます。

書庫内資料は新入生ガイダンスでも説明していますが、蔵書検索(OPAC)や目録カ  
ードで探し図書請求用紙に記入しメインカウンターに請求すると職員が出納対応して  
いますので遠慮なくお申し込みください。

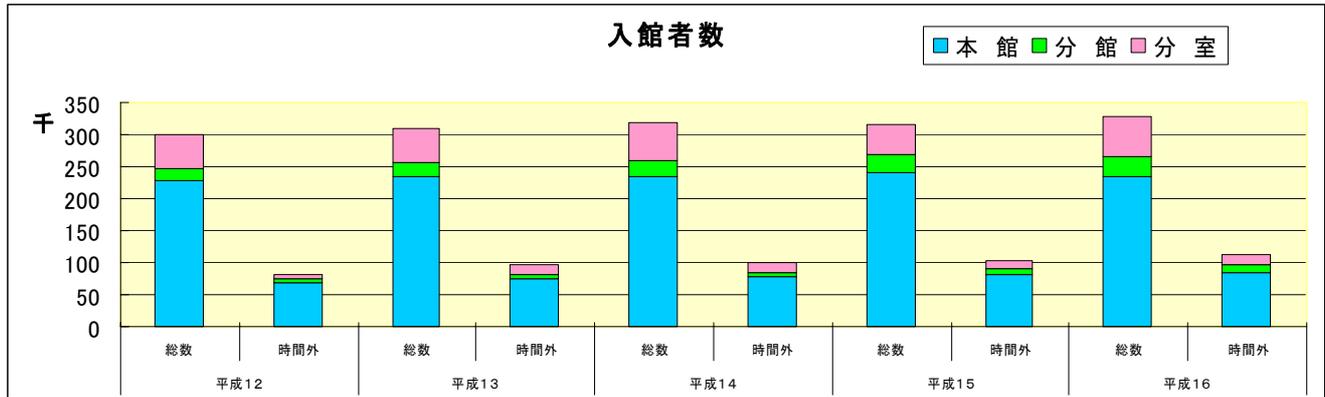
ただし、1、2年でも卒業論文のために今から準備にとりかかりたいという積極的な  
今回のご意見に対し、特定の調査・研究を進めている学生に担任又は指導教官の確認  
を得ての許可制による入庫の試行を検討したいと思います。事前にホームページ及び  
館内掲示で案内します。

**2月から入庫の試行を実施していますのでご利用ください**

**ご意見箱に図書館利用者希望図書申込書を投函される方が多くみられます。それ  
らの中には連絡先等の記述がされていない場合もあり、対応に苦慮しています。  
申込書は必ずメインカウンターに提出してくださるようお願いいたします**

## 入館者数について

平成16年度の平均利用者数（本館）は、1日当たり、平日昼間が638人、夜間が364人、土・日が364人でした

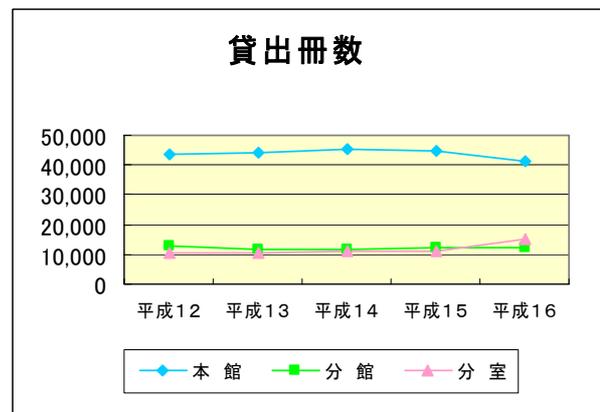
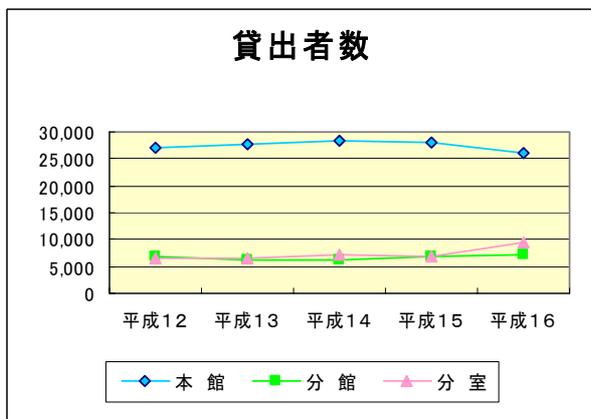


	平成12		平成13		平成14		平成15		平成16	
	総数	時間外								
本館	227,087	70,124	233,623	75,386	234,095	76,651	241,349	81,409	235,119	85,109
分館	21,014	6,405	21,154	6,803	26,281	8,355	27,510	8,743	29,627	10,805
分室	53,458	4,992	54,367	13,984	58,299	15,027	46,654	12,498	62,999	15,800

\* 時間外は土・日を含む

## 貸出者数・貸出冊数について

平成16年度の1年間に、学生1人当たり10冊借りたことになりました

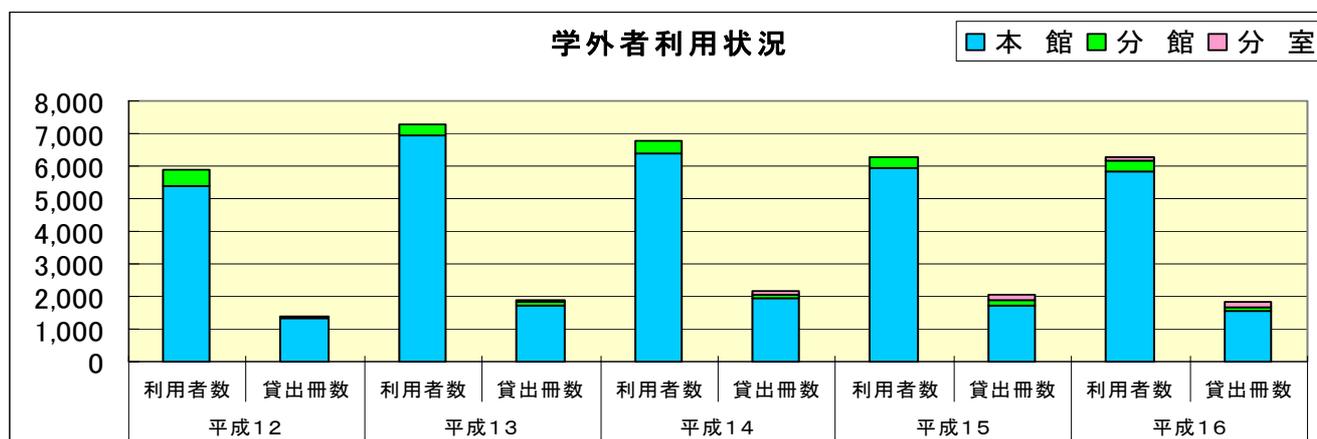


	貸出者数					貸出冊数				
	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16
本館	27,160	27,690	28,311	27,918	25,953	43,879	44,127	45,205	44,619	41,143
分館	6,801	6,229	6,321	6,981	7,256	12,936	11,670	11,454	11,971	12,248
分室	6,568	6,485	7,236	6,959	9,405	10,205	10,239	11,290	10,895	14,921

## 学外者利用状況について

利用者の中には、郷土の歴史、郷土出身の文学者、リンゴなど郷土の産業関係の資料を調べに来館される方もあります。

評論家で、詩人の坂口昌明さん（東京在住）は弘前出身の詩人 斎藤吉彦の蔵書が収められている「探珠山房文庫」を調査するため度々来館されました（東奥日報・夕刊2004年11月29日）

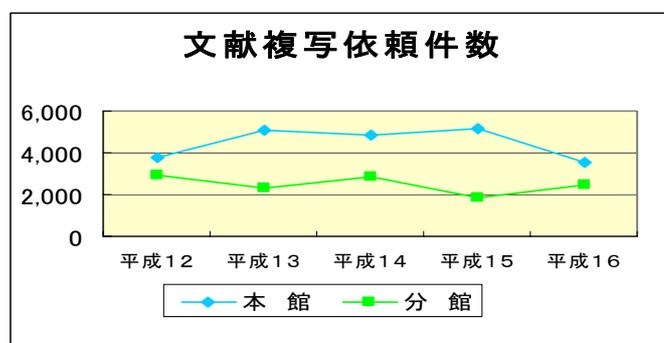
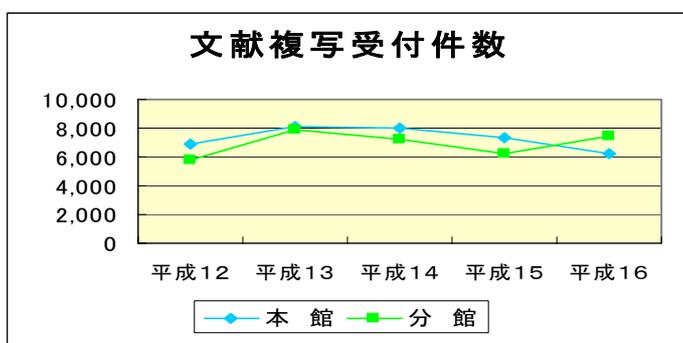


	平成12		平成13		平成14		平成15		平成16	
	利用者数	貸出冊数								
本館	5,414	1,310	6,972	1,720	6,397	1,966	5,964	1,720	5,826	1,567
分館	473	68	283	114	372	99	318	146	349	96
分室	—	9	—	41	—	100	—	171	104	149

## 文献複写(相互利用)について

主な貸出先は、山形大学、東北大学、福島大学、岩手大学、筑波大学等です

一方、借用先は、一橋大学、福島大学、国会図書館、新潟大学、秋田大学等です



	受付件数					依頼件数				
	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16
本館	6,861	8,096	7,968	7,355	6,210	3,798	5,042	4,849	5,136	3,501
分館	5,750	7,841	7,257	6,249	7,462	2,936	2,298	2,833	1,822	2,452

\* 保健学科分室の文献複写件数は分館に含まれる。

	図 書 貸 出(他大学)					図 書 借 用(他大学)				
	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16
本 館	467	533	661	635	639	574	444	468	500	459
分 館	25	38	35	45	76	18	16	33	21	20

\* 保健学科分室の相互貸借件数は分館に含まれる。

## 図書受入冊数および雑誌受入種類数について

図書の購入費の推移を見ると、平成15年度が前年度と較べ、8.9%の減、16年度は6.8%の増となりました

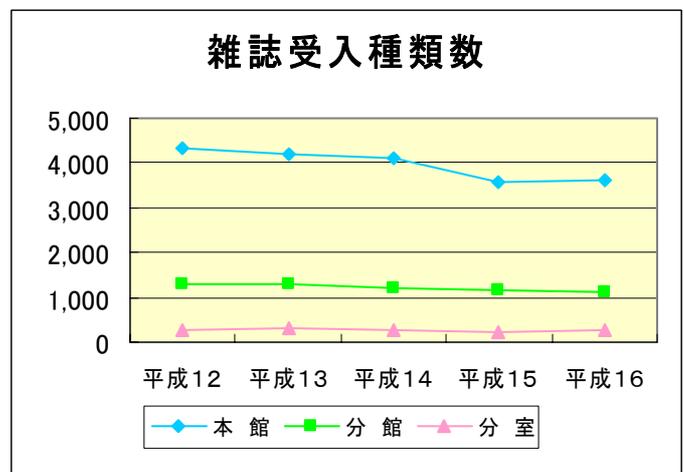
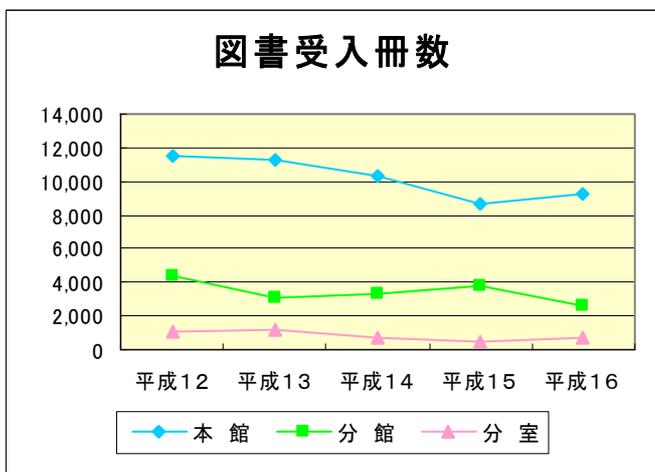


	図 書 受 入 冊 数					雑 誌 受 入 種 類 数				
	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16
本 館	11,510	11,275	10,376	8,718	9,291	4,329	4,208	4,103	3,580	3,609
分 館	4,363	3,133	3,276	3,770	2,589	1,285	1,308	1,199	1,180	1,108
分 室	1,053	1,228	732	521	690	290	294	281	234	272

## 総蔵書数および総雑誌タイトル数について

	総 蔵 書 数					総 雑 誌 タ イ ト ル 数				
	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16
本 館	679,894	691,098	699,701	607,671	616,962	14,795	15,720	16,341	16,942	17,323
分 館	163,765	166,898	170,174	128,041	130,630	5,033	5,186	5,374	5,522	5,636
分 室	41,284	42,064	42,790	42,537	43,227	519	574	598	616	670



『豊泉』初の試みである 2005 年度の結果は、以下の通りとなりました。本調査は貸出実績に基づいており、授業テキスト、参考書が上位を占めています。

次回は学部を横断して弘大生がどのような図書に興味を持っているのかも項目に含めたいと考えています。ご期待ください！

本 館		
順位	タイトル / 編著者名	貸出回数
1	無機定性分析実験 / 京都大学総合人間学部自然環境学科物質環境論講座編	67
2	電気・磁気と光 / Paul G. Hewitt, John Suchocki, Leslie A. Hewitt著 ; 本田建訳	26
3	分析化学 / 黒田六郎, 杉谷嘉則, 渋川雅美共著	25
4	固体物理学入門 / Charles Kittel [著]; 宇野良清 [ほか] 共訳	24
4	力学 / 戸田盛和著	24
4	新編植物病理学概論 / 久能均[ほか]共著	24
4	青森県の歴史 / 長谷川成一 [ほか] 著	24
4	国際的行為体とアイデンティティの変容 / 柑本英雄著	24
9	細胞の分子生物学 / Bruce Alberts [ほか] 著 ; 中村桂子, 松原謙一監訳	23
9	TOEIC TEST 470レベル文法・語法・語彙 / 山田正義 他編著 ; Dennis E.Schneider校閲	23

分 館		
順位	タイトル / 編著者名	貸出回数
1	標準生理学 / 本郷利憲, 廣重力監修 ; 豊田順一 [ほか] 編集	167
2	組織病理アトラス / 藍澤茂雄 [ほか] 編	129
3	標準麻酔科学 / 吉村望, 熊澤光生, 弓削孟文編	106
4	カッツング・薬理学 / Bertram G.Katzung [著]; 柳澤輝行 [ほか] 監訳	93
5	イラスト解剖学 / 松村譲児著	91
6	内科診断学 / 福井次矢, 奈良信雄編集	79
7	図説人体寄生虫学 / 吉田幸雄著	75
8	解剖学カラーアトラス / J.W. Rohen, 横地千仞共著	74
9	標準外科学 / 松野正紀, 北島政樹, 加藤治文編集	68
10	NEW薬理学 / 田中千賀子, 加藤隆一編集	55

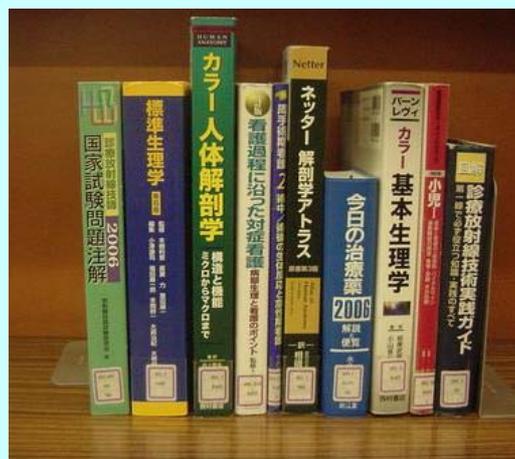
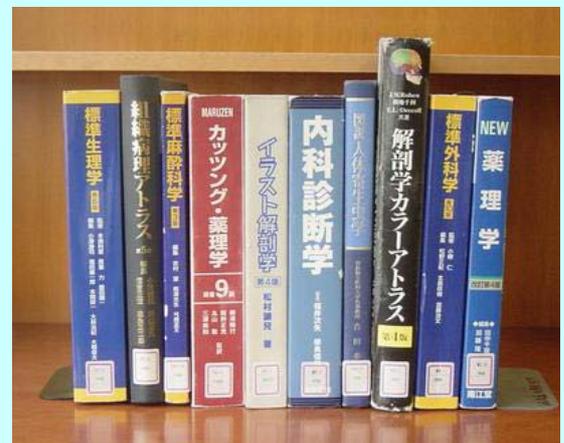
## 分 室

順位	タイトル / 編著者名	貸出回数
1	図解診療放射線技術実践ガイド / 高橋正治編集主幹	77
2	標準生理学 / 本郷利憲, 廣重力, 豊田順一監修 ; 小澤澗司 [ほか] 編集	72
3	カラー人体解剖学 : 構造と機能 : ミクロからマクロまで / F.H.マティーニ, 他著	67
4	看護過程に沿った対症看護 : 病態生理と看護のポイント / 磯岩壽満子 [ほか] 編著	58
5	術中/術後の生体反応と急性期看護 / 竹内登美子[ほか]著	56
6	ネッター解剖学アトラス / ネッター [著]; 相磯貞和訳	50
7	今日の治療薬 : 解説と便覧 / 水島裕, 宮本昭正 [共] 編著	47
8	カラー基本生理学 / バーン, レヴィ[編]; 有田順[ほか]訳	46
9	成長と発達的一般原則・バイタルサイン・運動機能の障害・食事・栄養・水分出納 / 桑野タイ子編集	43
10	診療放射線技師国家試験問題注解 / 放射線技師試験研究会編	42



本館ベスト 10

分館ベスト 10



分室ベスト 10

# 附属図書館が関係した弘前・東北・全国イベントの一覧です

平成17年2月～18年1月

Date	Event
平成17年 3月 9日(水)	平成16年度第3回附属図書館運営委員会
平成17年 4月21日(木)	第36回国立大学図書館東北地区協会総会(山形市)
平成17年 5月11日(水)	平成17年度第1回附属図書館運営委員会
平成17年 6月16日(木)	平成17年度第1回附属図書館図書選定委員会
平成17年 6月29日(水)～30日(木)	第52回国立大学図書館協会総会(名古屋大学)
平成17年 7月 1日(金)	国立大学図書館協会マネジメント・セミナー(名古屋大学)
平成17年 7月11日(月)	平成17年度第2回附属図書館運営委員会
平成17年 7月22日(金)	第11回青森県高等教育機関図書館協議会総会(八戸大学)
平成17年 7月22日(金)	東北地区大学図書館協議会合同研修会(国際教養大学)
平成17年 9月13日(火)	東北地区電子ジャーナルコンソーシアム会議(東北大学)
平成17年 9月15日(木)	第60回東北地区大学図書館協議会総会(青森市)
平成17年10月13日(木)	平成17年度第3回附属図書館運営委員会
平成17年10月21日(金)	第46回東北地区医学図書館協議会総会(山形大学)
平成17年10月28日(金)～30日(日)	弘前大学総合文化祭・図書館ツアー実施
平成17年11月25日(金)	附属図書館第2回学術講演会「世界から、そしてアジアから見た日本の文化」開催
平成17年11月28日(月)	平成17年度国立大学図書館東北地区協議会事務連絡会議(東北大学)
平成17年12月 8日(木)	東北地区大学図書館協議会フレッシュ・パーソン・セミナー(東北大学)
平成17年12月 8日(木)	平成17年度第1回附属図書館広報委員会
平成17年12月16日(金)	青森県高等教育機関図書館協議会研修会(弘前大学)

## 編集後記

図書館報「豊泉」を一新した。強力な新しいスタッフを得て二歩前進というところである。電子媒体に相応しいカラフルで読み応えのあるものというのが、編集方針である。年間に1報では、賞味期限を失するものがあり、広報の有効性を上げるにはもっと知恵を絞りたい。

“この目的達成に少なからず知恵をお持ちで、大学のために自己の才能を生かそう思う諸氏(学生, 技術職員, 教員)には、【[slame@si.hirosaki-u.ac.jp](mailto:slame@si.hirosaki-u.ac.jp)】へ連絡を乞う。”

**広報委員長** 雨森 道紘

**委員** 正村 和彦(分館長)                      澤田 真一(人文)                      永瀬 範明(理工)  
 祐川 幸一(医)                                      五十嵐 輝雄(学術情報部)  
 工藤 弘文(学術情報部)                      中田 晶子(学術情報部)



弘前大学附属図書館報 「豊泉」 第26号

発行日：2006年3月24日

発行／弘前大学附属図書館 〒036-8560 青森県弘前市文京町1 TEL 0172(39)3162  
 編集／弘前大学附属図書館 広報委員会